

北海道高性能林業機械化推進協議会（第3回）議事概要

1 日時及び場所

令和2年（2020年）2月4日（火）14:00～17:00
かでる2・7 310会議室

2 出席者

<構成員：18名>

国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所 佐々木研究専門員
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 対馬森林経営部長
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 渡辺主任主査（経営）
イワフジ工業株式会社 札幌支店営業部 小野寺支店長
コベルコ建機日本株式会社北海道支社 玉井支社長
松本システムエンジニアリング株式会社 松本代表取締役社長
株式会社イワクラ林材部苫小牧出張所 大宮副支店長
堀川林業株式会社 高篠代表取締役社長
北海道素材生産業協同組合連合会 工藤専務理事
林野庁北海道森林管理局 西浦課長補佐
林業木材課 加納林業振興担当課長
林業木材課 立原主幹、森林計画課 佐川主幹、森林整備課 小南主幹、
道有林課 佐藤主幹

<オブザーバー：3名>

一般社団法人北海道林業機械化協会 藤八事務局長
北海道森林組合連合会指導部 清水次長
株式会社筑水キャニコム PROJECT LINE 米内部長

<事務局：5名>

林業木材課 村下主幹ほか

3 議事

(1) 議事次第

- ・令和元年度（2019年度）北海道高性能林業機械実態調査に係る最終報告について
【資料2】北海道高性能林業機械実態調査の最終報告により説明。
- ・高性能林業機械保有状況について
【資料3】高性能林業機械保有状況（未定稿）により説明。
- ・「北海道高性能林業機械化方針（素案）」について
【資料4】「北海道高性能林業機械化方針（素案）」により説明。

(2) 主な議事内容

- ・0.45クラスで0.7クラスのパワーが出せる機械など、より馬力のある機械の開発が求められているが、排ガス規制の問題など課題が多くある状況となっている。
- ・植栽分野については、人力で植栽した方が速いという認識はあるものの、造林保育分野での担い手の減少が顕著であり、今後、主伐期を迎えた林分の更新を進めていかなければいけないことから、植栽の絶対量を確保するために機械化を進めて行くことが必要である。
- ・機械化を進めていくことは重要であるが、機械の台数を増やすだけでなく、機械稼働率を上げていくことも伴っている必要があるため、作業システムの確立やオペレーターの多能工化なども併せて進めていくべきである。
- ・スマート林業については、定義をはっきりとさせる必要があるということと、10年後に方針に沿ってどこまで達成できたのかを把握しやすくするために、テーマを区分して記載した方が良いのではないかと。
- ・林業機械の稼働率を上げて効率化を図っていくためには、制度の部分も重要であることから要望を明確にしていく必要がある。
- ・急傾斜地での施業については、これから主伐の林分が多くなり効率的な施業が行える状況が増えてくれば、バイオマスにも対応できる架線系での全木集材が採用されることも考えられる。
- ・機械が入ることのできない急傾斜地については、人工林で木材生産林として資源循環させていく事が良いのかも含めて、将来的に検討していく必要がある。
- ・令和8年度の目標を生産性の向上としているが、機械化を推進する上で目標とする指標として正しいものなのかを改めて検討する必要がある。